



病気についてのお願い

船小屋保育園

保育園は乳幼児が集団で長時間生活を共にする場です。感染症の集団での発症や流行はできるだけ防ぎ、子ども達が一日快適に生活できるようにしたいと思っています。回復状態が保育園での集団生活に適応できる状態に回復してからの登園であるようご配慮ください。

★朝から微熱がある場合は、登園後に高熱になることが多いようです。早めに医師の診察を受けて下さい。
保育園で発熱した場合は、38℃前後(子どもの体調変化等を見て)を目安として安静にさせ、熱を冷ますなどの対処をしながら緊急連絡先に連絡をします。早めにお迎えのうえ、医師の診察を受けてください。
(緊急連絡先は確実な連絡先をお願いします)

★嘔吐・下痢は時に伝染病を伴うことがあります。登園前に医師の診察を受けてください。

★保育士は、親の同意のもと薬を飲ませます。下記の事項を厳守してください。

薬は 1回分だけを小分けにし、「薬の説明書」を必ず持参してください。
連絡ノートに薬を飲ませて欲しい旨を記し、必ず押印してください。

※解熱剤は保育園では使用できません。家庭で解熱剤を使用し熱を下げた場合には、次の日までゆっくりと静養をさせていただきます。

★伝染病(コレラ、赤痢、日本脳炎など)は絶対的隔離となりますが、そのほかにも、他の保育園児に伝染するおそれがあるために、学校保健法で登園を停止される病気(別表)があります。また、家族の誰かがこのような伝染性の病気にかかっている場合には、担任にお知らせください。

★登園については医師の指示に従ってください。(登園届を提出してください。)

★登園停止の病気には、高熱や発疹など子どもにとって辛い症状のものが多くあります。又重篤な症状を引き起こすものもあるので、「人にうつすから」だけでなく、子どもの身体のためにも十分休ませてください。

登園に際しては次の配慮をお願いいたします。

- ① 園内での感染症の集団発生や流行につながらないこと
- ② 子どもの健康(身体)状態が保育園での集団生活に適応できる状態に回復していること

登園届の必要な病気

感染症名	感染しやすい期間	登園の目安
麻疹(はしか)	発症1日前から発しん出現後の4日後まで	解熱後3日を経過してから
インフルエンザ	症状が有る期間(発症前24時間から発熱後3日程度までが最も感染力が強い)	発熱後5日間を経過するか、もしくは解熱後3日を経過するまでのどちらから早い方。(発熱後1日でも熱が下がった場合も最低5日は登園停止)
新型コロナウイルス	発症2日前から発熱後5日間までが他人に感染させるリスクが高い	発熱後5日間を経過し、かつ、症状が軽快(解熱剤を使用せず解熱し、咳や鼻出しが改善)した後1日を経過するまで
風しん	発しん出現の前7日から後7日間くらい	発しんが消失してから
水痘(水ぼうそう)	発しん出現1~2日前から発しん皮形成まで	すべての発しんが痂皮化(かさぶた)してから
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	発症3日前から耳下腺腫脹後4日	耳下腺の腫脹が消失してから
結核		感染のおそれなくなってから
咽頭結膜熱(プール熱)	発熱、赤血等症候が出現した数日間	主な症状が消え2日経過してから
流行性角膜炎	赤血、目やに等症候が出現した数日間	感染力が非常に強いため結膜炎の症状が消えてから
百日咳	抗生薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで	特有の咳が消失し、全身状態が良好であること(抗生薬をきめられた期間服用する。7日間服用後は医師の指示に従う)
腸管出血性大腸菌感染症(O-157O-26O-111)		症状が治まり、かつ、抗生薬による治療が終了し、48時間をあけて連続2回の検便によって、いずれも菌陰性が確認されたもの

病名	感染しやすい期間	登園の目安
流行性感染症	適切な抗生薬治療を開始する前と開始後1日間	抗生薬内服後24~48時間経過していること
マイコプラズマ肺炎	適切な抗生薬治療を開始する前と開始後数日間	発熱や激しい咳が治まっていること
手足口病	手足や口腔内に水泡・潰瘍が発症した数日間	発熱や口腔内の水泡・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
伝染性紅斑(リンゴ病)	発しん出現前の1週間	全身状態が良いこと
ウイルス性胃腸炎(ノロ、ロタ、アデノウイルス等)	症状のある間と、症状消失後1週間(量は減少していきが数週間ウイルスを排泄しているため注意が必要)	嘔吐・下痢等の症状が治まってから24時間経過。普段の食事がとれること
ヘルパンギーナ	急性期の数日間(便の中に1ヶ月程度ウイルスを排泄しているため注意が必要)	発熱や口腔内の水泡・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
RSウイルス感染症	呼吸器症状のある間	呼吸器症状が消え、全身状態が良いこと
帯状疱疹	水泡を形成している間	すべての発しんが痂皮化してから
突発性発しん		解熱し痂皮が良く全身状態が良いこと
とびひ(伝染性膿痂疹)	接触すると他の人につうつま	患部が少くない場合はおおっでの登園可能、ただし広範囲に広がっている場合、おおっでない場合は登園を控えて下さい

登園の目安を参考に医師の診断にしたがい、登園届の提出をお願いします。子どもの健康状態が集団生活に可能となつてからの登園であるようご配慮ください。